

2022年度 研究の進捗状況

令和5年3月31日現在

氏名: 山内 宏志(2017年度入学)

●博士論文の研究計画の全体像

表題: 大学体育カリキュラム改革に関する実践的研究: フィットネス教育からライフスキル教育への転換

課題1: 大学教養体育カリキュラムに関する国内研究の動向と課題: ライフスキル獲得と大学適応に着目したスコーピングレビュー

課題2: ライフスキルが大学適応感に及ぼす影響—大学適応感尺度の開発による検討—

課題3: 心理社会的ウェルビーイングを重視した教養体育カリキュラムへの改革プロセス: 国際基督教大学の事例

課題4: 大学体育カリキュラム改革に関する実践的研究: フィットネス教育からライフスキル教育への転換

●論文作成

1. 山内宏志, 木内敦詞, 清水安夫: 心理社会的ウェルビーイングを重視した教養体育カリキュラムへの改革プロセス: 国際基督教大学の事例, 大学体育研究, 45, 2023. (早期公開)

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：田中 耕作（2017 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：長距離走の能力を効果的に改善するための新たな補助トレーニング法とその指導法に関する研究

●論文作成

なし

●学会発表

1. 田中耕作，高井洋平，体育授業における 5 分間の鬼遊びが小学生の新体力テストの成績に及ぼす影響，日本発育発達学会第 21 回大会，3 月 18 日，19 日

●その他

1. 公益財団法人ウエスコ学術振興財団研究助成金，研究課題（学生の運動能力向上を目的とした効果的な運動プログラムの開発～鬼ごっこに着目して～），期間（令和 4 年度），金額（30 万円）

以上

氏名：久保田 もか（2018 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学バレーボール授業におけるスパイク技術習得プログラム開発に関する
実践的研究

研究課題1 バレーボール指導書にみるスパイク技術指導ポイント

研究課題2 バレーボール初級者のためのスパイク技術習得プログラム作成

研究課題3 大学バレーボール授業におけるスパイク技術習得プログラムの有用性の
検証

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：霜鳥 駿太（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：スポーツ参加とポジティブな徳性に関する研究

研究1：スポーツとポジティブな徳性に関する文献レビュー

研究2：スポーツ参加の継続性とポジティブな徳性の関係の検討

研究3：スポーツ参加の具体的な経験・体験とポジティブな徳性の関係の検討

●論文作成

なし

●学会発表

1. 霜鳥駿太, 木内敦詞, 西田順一, 中雄勇人：運動部活動の継続性とポジティブな徳性—日本版生き方の原則調査票を用いた検討— 第 11 回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2023 年 3 月 13 日.

●その他

1. 2022 年度 北関東体育学会 若手研究助成 ポジティブ心理学における性格特性的強みに果たす体育・スポーツの役割に関する文献研究（助成期間：2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

以上

氏名：山田 盛朗（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学体育スノーボード実習における PCM 型授業の開発と有用性の検証

課題 1：スノーボード実習における PCM 型授業実践の成果と課題

課題 2：PCM 型スノーボード授業の再設計と学修効果の検討

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：森 実由樹（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：体育系大学新入生メディカルチェックにおけるスポーツ傷害予防のための動作評価に関する研究

研究課題 1：整形外科的メディカルチェックの実態

研究課題 2：整形外科的メディカルチェック後の傷害調査

●論文作成

1. 森 実由樹，山本利春，笠原政志，清水伸子：新入生を対象としたメディカルチェックにおける動作評価の導入～コロナ禍におけるスポーツ外傷・障害の予防を目的とした効果的な運動機能評価～. 武道・スポーツ研究 第3号：17-23（2022）
2. 小西由里子，井上哲朗，森実由樹，立木幸敏，刈谷文彦，吉嶺真，谷口有子，見波静，宮本瑠美，水島諒子：地域における健康・体力づくりの企画と実践・成果. 武道・スポーツ研究第3号：1-8（2022）

●学会発表

1. 森実由樹，前田明，櫻井健一：大学男子ソフトボール選手におけるベースランニング向上の取り組み. 第8回日本スポーツパフォーマンス学会大会，2022年7月27日

●その他

なし

以上

氏名：今城 遥（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：高等教育における Andragogy 理論に基づく「共生体育」授業の実践

研究課題Ⅰ：成人教育であるアンドラゴジー理論に基づく共生体育についての検討をおこなう。授業実践を通してペダゴジーとアンドラゴジーの「共生体育」の違いを明らかにする。

研究課題Ⅱ：アンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業を設計・実践し，その効果を検証する。

研究課題Ⅲ：「共生体育」授業を受講することによる多様性に関する意識・態度・行動に及ぼす影響について検討する。

●論文作成

1. 今城遥, 栗田昇平：中学校学習指導要領の変遷にみる体育科における「共生」のカリキュラムに関する研究. 聖カタリナ大学研究紀要, 第 34 号：131-141, 2022

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：北村 麻衣（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：女子バスケットボール日本トップ選手のキャリア発達と大学スポーツの関与に関する研究

研究 1：元 WJBL 選手対象の多様な進路・キャリア選択に関するインタビュー調査

研究 2：現役 WJBL 選手のセルフマネジメントスキルやキャリアの準備性に関する心理尺度調査

●論文作成

1. 北村麻衣, 木内敦詞：高校卒業後に実業団入りした女子バスケットボール選手のキャリア選択過程：複線径路等至性アプローチによる検討. 体育学研究, 67: 775-791, 2022

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：前原 千佳（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学体育一般体操授業が受講者の日常身体活動および運動への感情と態度に及ぼす影響

●論文作成

1. 前原千佳，木内敦詞，堀口文，稲垣和希：大学体育体操指導者の指導観に関するインタビュー調査研究. (in press) 体操研究.

●学会発表

1. 堀口文，前原千佳，松浦稜，本谷聡：T 大学における教養体育「基礎体育リフレッシュ体操」の事例報告. 日本体操学会第 22 回大会，2022 年 11 月 12 日.

●その他

なし

以上

氏名：蓬田 高正（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

研究題目：自己調整学習の方略使用を促進する大学体育授業に関する研究—ASE を導入した授業を題材にして—

研究課題 1：自己調整学習の理論的背景の整理

研究 1：ASE が自己調整学習の方略使用の促進に及ぼす影響に関する理論的検討

研究課題 2：大学体育授業における自己調整学習方略使用の関連要因

研究 2：大学体育授業における自己調整学習方略使用の関連要因

研究課題 3：大学体育授業における動機づけ調整方略の構造と関連要因

研究 3-1：大学体育授業における動機づけ調整方略の構造

研究 3-2：大学体育授業における動機づけ調整方略使用の関連要因

研究課題 4：自己調整学習の方略使用を促すための ASE を導入した大学体育授業の効果検証

研究 4-1：自己調整学習の方略使用を促すための ASE を導入した大学体育授業の実践

研究 4-2：ASE を導入した大学体育授業の定量的・定性的な効果検証

●論文作成

1. 蓬田高正・坂本昭裕（2023）大学教養体育における自己調整学習方略使用の関連要因. 奈良体育学会研究年報, 27：22-27.（査読なし）

●学会発表

1. 蓬田高正・坂本昭裕（2022）ASE を導入した大学教養体育が大学生の自己調整学習方略使用の促進に及ぼす影響. 日本野外教育学会第 25 回大会. 鹿児島大学（鹿児島県）. 2022 年 10 月 2 日

●その他

1. 2023 年度天理大学学術・研究・教育活動助成（教育改革に資する活動に対する助成：助成期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

以上

氏名：佐藤 伸之（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

本大学野球選手におけるデータ活用方法について、現在のトラッキングデータの活用状況について明らかにし、これまで実施した事例をもとにトラッキングデータ活用に関する知見を提示することを主目的とする。そのために以下の4つの研究課題を設定する。

研究課題Ⅰ：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用に関する活用状況の調査

研究課題Ⅱ：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用の実践－トラッキングデータを活用した即時フィードバックに関する事例－

研究課題Ⅲ：大学野球選手におけるトラッキングデータ活用の実践－コース別フィードバックシートの活用に関する事例－

研究課題Ⅳ大学野球選手におけるトラッキングデータ活用の実践－トラッキングシステムを用いた打撃練習による打球の類型化を活用したフィードバックシート作成に関する事例－

●論文作成

なし

●学会発表

1. 藤井雅文，鈴木智晴，佐藤伸之，大山栞爾，蔭山雅洋「大学野球選手における体重の増量は 30m 疾走能力を低下させるのか」第8回スポーツパフォーマンス学会大会，2022年7月27日
2. 西村壮市，大山栞爾，佐藤伸之，鈴木智晴，藤井雅文，前田明「打球角度の異なる打者のスイング軌道と体幹回転軸角度の特徴」第8回スポーツパフォーマンス学会大会，2022年7月27日

●その他

なし

以上

氏名：横山 茜理（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題「バスケットボール競技における学生アナリストのスキル評価に関する研究」

課題1：学生アナリストのスキル評価のための指標作成に関する研究

課題2-1：学生アナリストの育成過程に関する研究

課題2-2：学生アナリストの育成に関する研究

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：齋藤 拓真（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：職業社会化理論に基づく大学の体育教員養成課程における授業改善

研究1：体育教員養成課程の学生における文化適応の特徴

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：松浦 稜（2021年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学生の日常生活に根付く体操課題の開発に関する実践的研究

●論文作成

1. 松浦稜，木内敦詞，堀口文，本谷聡，長谷川聖修：日常生活における継続受容性の高いエクササイズコンテンツの検討：大学教養体育受講生を対象に．体操研究，16: 15-31.
2. 金井茂樹，本谷聡，堀口文，松浦稜，杉井勇介：シルホイールの初心者を対象とした運動プログラムの考案－スピン運動の習得を目指して－．体操研究，16: 32-44

●学会発表

1. 松浦稜，堀口文：ICTを活用した「ながらく運動」の指導実践－大学教養体育受講生を対象に－．日本体育科教育学会第27回大会，2022年6月25日.
2. 松浦稜，工藤実里，長谷川聖修：北海道民を対象とした「BIG BOSS 体操」の実践．体操学会第22回学会大会，2022年11月13日.
堀口文，前原千佳，松浦稜，本谷聡：T大学における教養体育「基礎体育リフレッシュ体操」の事例報告．体操学会第22回学会大会，2022年11月13日.
3. 長谷川聖修，檜皮貴子，堀口文，松浦稜：アクティブ・オフィスワークの試み（その4）－Body Mouse SystemによるPC作業に着目して－．体操学会第22回学会大会，2022年11月13日.
4. 狩野莉奈，本谷聡，堀口文，松浦稜，大島未都来：一般体操における指導上の観点に関する質的研究－指導の困難さに着目して－．体操学会第22回学会大会，2022年11月13日.

●その他

なし

以上

氏名：渡邊 仁（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

題目：大学体育としての野外運動授業が学修者の創造性に及ぼす影響

課題 1：創造性の概念を整理し，野外運動において促進可能な創造性を理論的に明らかにする

課題 2：創造性の促進を包含した「野外運動」授業の実践と，その効果を定量的に明らかにする

課題 3：創造性に影響を与える要因に関して，学修者視座の「授業構造や機能」から定性的に明らかにする

●論文作成

1. 吉松梓，渡邊仁，大友あかね，坂本昭裕：身体性に課題を抱える青年期前期の事例における長期冒険キャンプの意味－市川浩の身体論に着目して－. 野外教育研究, 26, 2023 年 3 月. pp69-87
2. 渡邊仁，高橋達己：(速報版) 2022 年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究-状態自尊感情・自然観・富士山イメージの変化-. 一般社団法人田部井淳子基金 東北の高校生の富士登山 2021/2022. 2022 年 11 月. p28

●学会発表

1. 渡邊仁，坂本昭裕：野外運動授業が学修者の創造的自己に及ぼす影響に関する予備的検討. 日本野外教育学会第 25 回大会, 2022 年 10 月.
2. 吉松梓，渡邊仁，大友あかね，坂本昭裕：青年期前期の事例における長期冒険キャンプの意味－市川浩の身体論に着目して－. 日本野外教育学会第 25 回大会, 2022 年 10 月.
3. 佐藤冬果，坂本昭裕，渡邊仁，大友あかね：参加者の回顧的語りから見た ASE の体験プロセスとその意味－チームスポーツのプロ選手および指導者を対象に－. 日本野外教育学会第 25 回大会, 2022 年 10 月.

●その他

1. 渡邊仁：「ウィルダネス」環境下における野外教育プログラムが体験者の自我再構築に及ぼす影響. 科研費基盤研究 (C) (課題番号：20K11459, 研究期間：2020～2023 年度)

以上

氏名：田川 浩子（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：陸上競技の技能改善における運動理解・把握の要点と段階：技能改善に難渋する
大学競技者の運動理解・把握の特徴とその変化を手がかりに

●論文作成

1. 田川浩子, 金高宏文：運動実施者が運動意識を理解・表現するための記述・分析法の
提案. スポーツ運動学研究, 35 : 173-185, 2022.

●学会発表

1. 田川浩子, 金高宏文：砲丸投の技能改善に難渋した競技者の運動理解・把握の様相と
特徴：技能改善を円滑に進めるための要点を探る. 第36回日本スポーツ運動学会大
会大会抄録集, 82-90, 2023.

●その他

なし

以上

氏名：西園 聡史（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学サッカー選手の競技力向上に関する研究―守備戦術に着目して―

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：阿部 隆行（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：体育教師教育における経営学習論に基づくコミュニティシップ育成プログラムの開発と検証

●論文作成

なし

●学会発表

1. 藤川和俊, 阿部隆行, 泉敏郎：異学年集団による選択制球技授業における生徒の学び－種目間の比較を中心に－. 日本スポーツ教育学会第 42 回学会大会(流通経済大学), 2022 年 9 月 24 日
2. 藤川和俊, 阿部隆行, 泉敏郎：大学生を対象としたオリンピック教育が観戦に与える影響－自由記述回答の計量テキスト分析から－. 日本教科教育学会第 48 回全国大会(愛媛大学), 2022 年 10 月 8 日

●その他

なし

氏名：大友 あかね（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：野外運動の授業における身体活動を通じた関わりが大学生の自他意識に及ぼす影響

課題 1：身体的な他者との関わりの理論的背景の整理および、大学体育における位置づけの検討

課題 2：身体的な他者との関わりの構造の検討および効果的な授業方法の構想・実践

課題 3：授業実践の効果検証

●論文作成

なし

●学会発表

1. 大友あかね, 坂本昭裕, 森山玖実, 金谷洸晟：統合型キャンプに参加した自閉症児の事例検討－関係発達の視点から－. 日本野外教育学会第 25 回大会 2022 年 10 月.

●その他

なし

以上

氏名：堀口 文 (2022 年度入学)

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学体育における体づくり運動の学習プログラムの開発－身体活動における自己管理能力の向上に着目して－

研究Ⅰ：体づくり運動および一般体操に関する文献調査・実態調査

研究Ⅱ：身体活動における自己管理能力の向上を目指した学習プログラムの開発

研究Ⅲ：学習プログラムの実施とその効果検証

●論文作成

1. 松浦 稜, 木内 敦詞, 堀口 文, 本谷 聡, 長谷川 聖修：日常生活における継続受容性の高いエクササイズコンテンツの検討：大学教養体育受講生を対象に．体操研究, 16：15-31, 2022.
2. 金井 茂樹, 本谷 聡, 堀口 文, 松浦 稜, 杉井 勇介：シルホイールの初心者を対象とした運動プログラムの考案－スピン運動の習得を目指して－．体操研究, 16：32-44, 2022.
3. 前原 千佳, 木内 敦詞, 堀口 文, 稲垣 和希：大学体育体操指導者の指導観に関するインタビュー調査研究．体操研究, 17：1-13, 2023.
4. 仲澤翔大, 堀口 文, 金谷麻理子, 吹田真士, 柵木聖也, 吉松 梓, 鍋倉賢治：筑波大学体育センター集中授業「ウィンドサーフィン」に関する授業報告－コロナ禍における宿泊を伴う実習の実施方法の検討－．大学体育研究, 45：7-14, 2023.
5. 堀口 文, 本谷 聡, 高橋靖彦：第 15 回世界ラート競技選手権大会報告－世界チャンピオンへの道のりを振り返って－．大学体育研究, 45：57-64, 2023.
6. 本谷 聡, 堀口 文, 狩野 莉奈, 菊池 月：コロナ禍におけるつくば体操フェスティバルの新たな開催形式ならびに感染対策に関する検証．大学体育研究, 45：69-75, 2023.

●学会発表

1. 松浦 稜, 堀口 文：ICT を活用した「ながらく運動」の指導実践－大学教養体育受講者を対象に－．日本体育科教育学会第 27 回大会, 2022 年 6 月 25 日.
2. 本谷 聡, 木内敦詞, 永田真一, 堀口 文, 狩野莉奈, 大島未都来：Sport und Gymnastik Schule Kiedaisch における Haltungsschulung の運動課題に関する記述的研究．日本体操学会第 22 回大会, 2022 年 11 月 13 日.
3. 堀口 文, 前原千佳, 松浦 稜, 本谷 聡：T 大学における教養体育「基礎体育リフレッシュ体操」の事例報告．日本体操学会第 22 回大会, 2022 年 11 月 13 日.

4. 狩野莉奈, 本谷聡, 堀口文, 松浦稜, 大畠未都来: 一般体操における指導上の観点に関する質的研究ー指導の困難さに着目してー. 日本体操学会第 22 回大会, 2022 年 11 月 13 日.
5. 大畠未都来, 本谷聡, 堀口文, 狩野莉奈, 杉井勇介: 幼児を対象とするリズム体操の考案ー「跳ねる」に着目してー. 日本体操学会第 22 回大会, 2022 年 11 月 13 日.
6. 長谷川聖修, 檜皮貴子, 堀口文, 松浦 稜: アクティブ・オフィスワークの試み (その 4)ーBody Mouse System による PC 作業に着目してー. 日本体操学会第 22 回大会, 2022 年 11 月 13 日.

●その他

なし

以上

氏名：本谷 聡 (2022 年度入学)

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学生の姿勢改善をねらいとした体操の提案と効果検証：ドイツ体操の
Haltungsschulung に着目して

課題 1：ドイツ体操学校の Sport und Gymnastik Schule Kiedaisch における
Haltungsschulung の運動課題に関する記述的研究

課題 2：Haltungsschulung の特性を生かした大学生の姿勢改善に有用な体操の試案

課題 3：姿勢改善をねらいとして試案した体操の効果検証

●論文作成

1. 松浦稜, 木内敦詞, 堀口文, 本谷聡, 長谷川聖修：日常生活における継続受容性の高いエクササイズコンテンツの検討：大学教養体育受講生を対象に. 体操研究, 16：15-31, 2022. (査読有)
2. 金井茂樹, 本谷聡, 堀口文, 松浦稜, 杉井勇介：シルホイールの初心者を対象とした運動プログラムの考案：スピン運動の習得を目指して. 体操研究, 16：32-44, 2022. (査読有)
3. 本谷聡, 堀口文, 狩野莉奈, 菊池月：コロナ禍におけるつくば体操フェスティバルの新たな開催形式ならびに感染対策に関する検証. 大学体育研究, 45：69-75, 2023.
4. 堀口文, 本谷聡, 高橋靖彦：第 15 回世界ラート競技選手権大会報告－世界チャンピオンへの道のりを振り返って－. 大学体育研究, 45：57-64, 2023.

●学会発表

1. 本谷聡, 木内敦詞, 永田真一, 堀口文, 狩野莉奈, 大島未都来：Sport und Gymnastik Schule Kiedaisch における Haltungsschulung の運動課題に関する記述的研究. 日本体操学会第 22 回大会号, 22, 2022 年 11 月 13 日.
2. 狩野莉奈, 本谷聡, 堀口文, 松浦稜, 大島未都来：一般体操における指導上の観点に関する質的研究－指導の困難さに着目して－. 日本体操学会第 22 回大会号, 23, 2022 年 11 月 13 日.
3. 杉井勇介, 本谷聡, 長谷川聖修, 狩野莉奈, 大島未都来：ラジオ体操第一の指導内容に関する研究－組体操へのアレンジに着目して－. 日本体操学会第 22 回大会号, 25, 2022 年 11 月 13 日.
4. 堀口文, 前原千佳, 松浦稜, 本谷聡：T 大学における教養体育「基礎体育リフレッシュ体操」の事例報告. 日本体操学会第 22 回大会号, 30, 2022 年 11 月 13 日.
5. 大島未都来, 本谷聡, 堀口文, 狩野莉奈, 杉井勇介：幼児を対象とするリズム体操の考案－「跳ねる」に着目して－. 日本体操学会第 22 回大会号, 31, 2022 年 11 月 13 日.

日.

●その他

1. 本谷聡：高等学校の体づくり運動における生徒の主体的・対話的活動を促す運動プログラム開発. 科研費基盤研究（C）（課題番号：22K11628, 研究期間：2022～2025年度）

以上

氏名：大澤 啓亮（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

サービス動作の評価項目の作成に関する研究（フラットサービスに着目して）（仮）

●論文作成

1. 大学女子テニス選手を対象としたサービスパフォーマンス向上の取り組み事例. 高橋仁大, 柏木涼吾, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐. スポーツパフォーマンス研究 14 267-276 2022 年 11 月 査読有り

●学会発表

1. Development of evaluation criteria for tennis service movement skills. Keisuke Osawa, Daisuke Mitsuasi, Takahiko Nishijima, Hideki Takagi, Shunsuke Murakami, Hiroo Takahashi. ARIHHP Human High Performance Forum 2023, 2023.2.19
2. テニスの女子ダブルスにおけるゲーム様相に関する研究：最終ショットに着目して. 高橋仁大, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐. 日本コーチング学会第 34 回学会大会 2023 年 3 月
3. 機械学習を適用したサービスエース予測モデルの構築. 大澤啓亮, 村上俊祐, 岡村修平, 柏木涼吾, 高橋仁大. 第 34 回テニス学会 2022 年 10 月 22 日
4. テニス・女子ダブルスのゲームパフォーマンス分析. 高橋仁大, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐. 第 34 回テニス学会 2022 年 10 月
5. テニスのリターンにおけるスピード及び回転数. 柏木涼吾, 村上俊祐, 中村和樹, 大澤啓亮, 高橋仁大. 第 34 回テニス学会 2022 年 10 月 22 日
6. 模擬ゲーム中の打球データに基づく学生選手の課題の設定例. 村上俊祐, 大澤啓亮, 岡村修平, 北村哲, 高橋仁大. 第 34 回テニス学会 2022 年 10 月
7. トラッキングデータを用いたサービスエースに関する研究 ~Australian Open 2022 Men's Singles における 1st サービスを対象に~. 大澤啓亮, 中村和樹, 柏木涼吾, 村上俊祐, 高橋仁大. 第 8 回 日本スポーツパフォーマンス学会大会 2022 年 7 月 27 日
8. 打球データに基づいたテニスのゲームパフォーマンス分析とその分析結果の活用事例: 同一選手に対する 3 選手の練習マッチの結果から. 村上俊祐, 田代翔, 中村和樹, 安田健人, 大澤啓亮, 柏木涼吾, 高橋仁大. 第 8 回 日本スポーツパフォーマンス学会大会 2022 年 7 月 27 日

●その他

1. ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター（ARIHHP）2022 年度 ARIHHP

研究プロジェクト（学内） 2022年6月 - 2023年2月

以上

氏名：岡村 修平（2022 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：テニスのネットプレーにおけるポジショニングと打球コースに着目した指導法に関する研究

●論文作成

1. 高橋仁大, 柏木涼吾, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐：大学女子テニス選手を対象としたサービスのパフォーマンス向上の取り組み事例. スポーツパフォーマンス研究, 14, 267-276, 2022. (査読あり)
2. 柏木涼吾, 村上俊祐, 岡村修平, 沼田薫樹, 高橋仁大：テニスのゲームにおいてプロテニス選手がサービスのスピード及び回転数を変化させる要因. テニスの科学, 31: 13-14, 2023. (査読あり)
3. Hiroo Takahashi, Shuhei Okamura and Shunsuke Murakami. Performance analysis in tennis since 2000: A systematic review focused on the methods of data collection. International Journal of Racket Sports Science, 4(2): 40-55, 2023. (査読あり)

●学会発表

1. 柏木涼吾, 村上俊祐, 沼田薫樹, 岡村修平, 高橋仁大：テニスにおけるゲームパフォーマンス分析を活用したコーチングの実践—競技力の低い高校生テニス選手を対象として—. 第8回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 2022年7月27日.
2. Shuhei Okamura, Koki Numata and Ryogo Kashiwagi: The Relationship between Technique and Score in Tennis Doubles -A Study of Male and Female Collegiate Tennis Players. 13th World Congress of Performance Analysis of Sport 2022 & 13th International Symposium on Computer Science in Sport 2022 (ビデオ発表), 2022年9月10日～13日.
3. 村上俊祐, 大澤啓亮, 岡村修平, 北村哲, 高橋仁大：模擬ゲーム中の打球データに基づく学生選手の課題の設定. 第34回テニス学会, 2022年10月22日～23日.
4. 高橋仁大, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上俊祐：テニス・女子ダブルスのゲームパフォーマンス分析. 第34回テニス学会, 2022年10月22日～23日.
5. 高橋仁大, 岡村修平, 大澤啓亮, 村上 俊祐：テニスの女子ダブルスにおけるゲーム様相に関する研究 —最終ショットに着目して—. 日本コーチング学会第34回学会大会, 2023年2月28日～3月1日.

●その他

なし

以上